

良き市民のための 批判的思考

京都大学大学院教育学研究科 教授

楠見 孝 (くすみ たかし)



Profile — 楠見 孝

1987年、学習院大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程退学。博士（心理学）。学習院大学助手、筑波大学講師、東京工業大学助教授、京都大学助教授を経て、2008年より現職。専門は認知心理学。著書は『実践知』（共編、有斐閣）、『批判的思考力を育む』（共編、有斐閣）、『思考と言語（現代の認知心理学3）』（編著、北大路書房）、『仕事のスキル』（共編、北大路書房）、『メタファー研究の最前線』（編著、ひつじ書房）、『比喩の処理過程と意味構造』（単著、風間書房）など。

批判的思考とは相手を非難すること？

批判的思考は「相手を非難する思考」と誤解されることがある。そのため、相手を攻撃する否定的なイメージがもたれている。しかし、批判的思考において大切なことは、第1に、相手の発言に耳を傾け、証拠や論理、感情を的確に解釈すること、第2に、自分の考えに誤りや偏りがないかを振り返ることである。したがって、相手の発言に耳を傾けずに挙げ足を取ることは批判的な思考と正反対のことがらである。

ここで批判的思考（クリティカルシンキング）を定義しよう。批判的思考とは第1に、証拠に基づく論理的で偏りのない思考である。第2に、自分の思考過程を意識的に吟味する省察的（リフレクティブ）で熟慮的思考である。そして、第3に、より良い思考を行うために目標や文脈に応じて実行される目標指向的な思考である。たとえば、学習者、研究者は、批判的に読む・聞く（情報収集）、話す（討論やプレゼンテーション）、書く（レポートや論文）ことを行っている。これらは学問・研究のために必要なコミュニケーション能力（学問・研究リテラシー）を支えるスキルである。したがって後で述べるように、大学の初年次教育で重視されるようになってきた。さらに、日常生活や職業生活においては、テレビを見る、広告に接する、インターネットで情報を集める、決定する時などに批判的思考は働いている。情報を鵜呑みにせず立ち止まって考える批判的思考は、市民としての

生活に必要なコミュニケーション能力（市民リテラシー）を支えている。このように批判的思考は、学業、職業など幅広い場面で働く汎用的（ジェネリック）スキルでもある。

批判的思考のプロセスは？

批判的思考のプロセスは、図1で示すように、次の四つの段階を考えることができる。①情報を明確化する（報道、発言、書籍などの主張とそれを支える根拠を正しくとらえる）、②推論をするための土台を検討する（隠れた前提を明らかにしたり、主張が信頼できる証拠に基づいているかを検討する）、③推論を行う（演繹・帰納・価値判断によって、偏りのない結論を論理的に導く）、④意思決定や問題解決をする。

そして、これら四つに加えて、①から④が正しく行われているかを振り返り（モニター）、コントロールするのが1段階高いレベルにあるメタ認知プロセスである。メタ認知プロセスは、目標に照らして批判的思考を実行するかどうかの判断もしている（田中・楠見、2007）。さらに、こうした批判的思考のプロセスを土台から支えているのが、批判的に考えようとする態度である。批判的思考態度には、(a) 論理的に考えようとする、(b) 証拠に基づいて考えようとする、(c) 多くの情報を探究しようとする、(d) 偏見や先入観にとらわれず客観的に考えようとする（平山・楠見、2004）、そしてこれらすべてに関わる (e) 熟慮することがある。

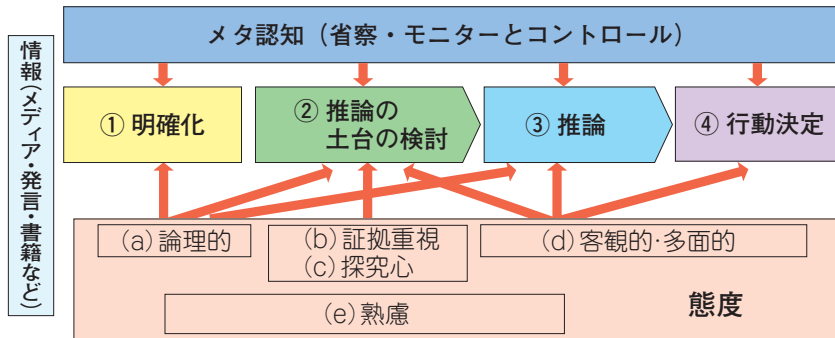


図1 批判的思考のプロセス (楠見, 2011aを改変)

今なぜ批判的思考が必要とされるのか？

第1は、市民に批判的思考が求められている点である。市民はテレビや新聞をはじめ、インターネット、家族、友人などを通して、さまざまな情報の中で、信頼できる情報を判断して行動をする必要がある。とくに東日本大震災以後、低線量の放射能による健康影響に関しては、批判的思考と知識によって、リスクに立ち向かい、リスクを減らす適切な行動をし、科学的根拠のない偏見や差別をなくすことが必要である。また、今後の日本のエネルギー問題を考える際にも、一人ひとりがさまざまな情報を批判的に吟味して判断することが大切である。

楠見・三浦・小倉 (2012) は、東日本大震災の原発事故による放射線リスク情報の理解に批判的思考態度がどのように影響するかについて、被災県、首都圏、関西圏の計1752人の一般市民を対象に、震災半年後と1年後にネット調査を行った。その結果、批判的思考態度はメディアリテラシーを向上させることを通して、知識や自発的な情報収集を促進し、リスク対処行動に影響を及ぼしていたことがわかった。

第2は、社会で働く人に批判的思考が求められている点である。急速に変化する社会や経済の状況に対応するために、単なる知識だけではなく、批判的思考能力を中核とした、論理的思考力、コミュニケーション能力をもつ人材が求められるようになってきている。「大学生が卒業までに最低限身につけなければならない能力」としての学士力の位置づけは、そのあらわれでもある。学士力には、①知識・理解、②汎

用的スキル (論理的思考力、コミュニケーションスキル、情報リテラシーなど)、③態度・志向性、④統合的な学習経験と創造的思考力 — の四つが挙げられている (中央教育審議会, 2008)。批判的思考は、汎用的スキルの中核となり、他の三つにも関わる。また、経済産業省 (2007) は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」である社会人基礎力として、三つの能力 (考え抜く力、前に踏み出す力、チームで働く力) を挙げている。この中で考え抜く力には、課題発見力、計画力、創造力を挙げている。これらは、学士力と重なる部分があるが、より実践的な課題解決に重点が置かれている。

また、働く人が批判的思考態度をもつことは、仕事の経験を省察して、経験から学習する態度を促進する。それは、実践的知識の獲得を通して熟達者になるための土台になっている (金井・楠見, 2012)。

第3は、学習者に批判的思考が求められるようになった点である。大学の大量化によって、入学者に対する学習スキル教育の重要性が高まった。そして、導入教育の一環として、ライティング、リーディング、プレゼンテーションなどに関わる批判的思考教育が行われるようになった。これは米国で盛んになり、そして日本においてもはじまりつつある (たとえば、楠見・田中・平山, 2012)。さらに、専門教育 (とくに看護教育、経営大学院など) においても、高度の知識やスキルを土台にした批判的思考力をもった専門家の育成が重視されるようになってきている。

また、大学生だけでなく小中高生に対しても、社会の変化に対応できるように、「すべての子どもに、課題解決のために自ら考え判断・行動できる社会を生き抜く力の育成」が日本再生のための鍵と捉えられている(文部科学省, 2012)。そこでは、考える力(クリティカルシンキング)やコミュニケーション能力等の育成に焦点が当てられている。

小学校から大学までの批判的思考教育を、体系的に行うためには、児童・生徒の批判的思考態度や批判的学習スキルが、学年によってどのように発達するか、どのような学習活動が影響を及ぼすのかを明らかにする必要がある。さらに、批判的思考の教授法、教材、測定ツールの開発も必要である。

批判的思考研究における心理学の役割とは

批判的思考の源流は、古代ギリシャのソクラテスの哲学にさかのぼることができる。「無知の知」の考え方は、知らないことを自覚する知性に着目したものである。20世紀に入って米国のプラグマティズム哲学者デューイは、「省察的思考」として「信念や知識を、それを支える根拠とそこから導出される結論に照らして、能動的、持続的、慎重に考慮する思考」と定義している。これは現代の批判的思考の中核となる概念である。1950年代後半頃からは、日常生活における議論を扱う非形式論理学が盛んになってきた。その流れをくむ誤謬アプローチに基づく批判的思考教育は、議論の形式的誤謬(後件否定、前件否定など)や非形式的誤謬(過剰一般化、因果関係の逆転など)を分類して、誤りを起こさないような訓練をするものであり、教科書も多い。

こうした誤謬について、思考心理学では、古くから形式的・非形式的誤謬に関するデータを蓄積しており、認知心理学、社会心理学では、直観的ヒューリスティックや信念やステレオタイプによるバイアスに関するデータも蓄積している。そして、こうした誤謬やバイアスのデータを示したうえで、これらを克服する処方的な視点で書かれた教科書とその日本版(Zechmeister

& Johnson, 1992 / 道田他訳, 1996-1997)は、日本における批判的思考の教育に大きな影響を及ぼした。米国では、心理学教育に批判的思考を導入することが積極的に行われ、教科書だけでなく専門書も複数出版されている。なぜなら、心理学は、人の情報処理能力に限界があり、記憶、思考、意思決定、社会的認知に誤りやバイアスが生じうることを実証的に示し、体系的に説明をしている。これらを学生が学ぶことは、日常生活における認知のエラーやバイアスに自覚的になり、それらを修正することに結びつく。そのほかにも、心理学を通して学ぶ科学的方法論や、文章の理解や産出、リスク認知、コミュニケーションや流言などのトピックも、批判的思考に基づく日常生活の実践に役立つと考える。

なお、日本心理学会の教育研究委員会の調査小委員会は、市民、教員を対象にした調査において、心理学リテラシーと批判的思考態度の関連も調べている(楠見, 2011b)。その中で、批判的思考態度は、学歴が高いほど高く、また、心理学学習歴があるほど高くなる傾向があった。これらのことから、批判的に考える市民を育てるうえで、大学で学ぶこと、そして心理学を学ぶことの意義は大きいと考える。

良き市民による幸せな社会とは？

批判的思考教育の目的の一つは、良き市民を育てることである。良き市民の一つの形は、批判的思考能力と態度をもち、生活に必要な情報を正しく読み取り、人に正確に伝え、考えの違う人の意見に耳を傾けつつ適切に行動するというものである。そして、責任感をもって、自律的に社会に関わり、倫理的・道徳的判断を行い、社会的問題を解決する、市民性(シティズンシップ)をもつことである。

こうした個人が批判的に考えることによって、人生の中で次々と直面する問題において、より良い決定を積み重ねて、幸福な人生を歩むことができると考える。私が市民や大学生を対象に実施した複数の調査では、批判的思考態度は、幸福感とは直接相関はないが、行動を起こし持続する移行モード傾向を通して、幸福感を

高めていることがわかった(楠見, 2012)。また, がんとアトピー性皮膚炎の患者と家族 1089 人に調査したところ, 批判的思考態度は, 病気への適応(例: 病気についてくよくよ考えない, 良くなると信じている)と正の相関がみられた。そして, パス解析の結果は, 批判的思考の態度が科学リテラシーを高め, 病気の知識, 食生活の知識を高め, その結果として病気への適応尺度得点を高めていた(楠見・三浦・小倉, 2009)。

大学・大学院における批判的思考教育の目的は, 批判的に考えるリーダーや専門家を育成することでもある。リーダーらには, 市民性と批判的思考に支えられた専門的知識やコミュニケーション能力, そしてリーダーシップをもつことが求められている。さらに, 現状を省察したうえで将来に目を向け, ビジョンを立て, 人々と協力して, 対立や社会の問題を解決することが重要である。

しかし, 個人レベルでも, 社会レベルでも批判的思考を実行することが難しいことは事実である。とくに, 日本の社会では目上の人や仲間に対して批判的思考に基づく発言をしにくいのが現状である。そうした中で必要なことは, まずは身近な家族, 学校, 職場, 地域, ネットといったコミュニティにおいて, じっくり考え, 対話ができる場(批判的コミュニティ)をつくることである。そのためには, 必要な情報を自分自身で集め, 人に正確に伝え, 人の意見に耳を傾けることが重要である。こうしたコミュニティは社会的問題解決の実践の場である。自分の住むコミュニティにおける意見や利害関係の対立は, 批判的思考のスキルを用いて, 相手も自分も満足させるような解決を導くことが理想である。とくに, 自分のもつ認知バイアスを自覚し, 多角的な視点で物事を見ることによって, 異なる価値観や視点を理解する姿勢が大事である。

批判的に考える良き市民が, 人生そして社会の問題を協同して解決し, 幸せな人生とより良い社会を築くことができるようになることは一つの理想である。そのために, 心理学者が, 批判的思考に関する研究と教育において果たす役割は大きいと考えている。

文 献

- 中央教育審議会(2008) 学士課程教育の構築に向けて. 文部科学省
- 平山るみ・楠見孝(2004) 批判的思考態度が結論導出プロセスに及ぼす影響: 証拠評価と結論導出課題を用いての検討. 『教育心理学研究』52, 186-198.
- 金井壽宏・楠見孝(編)(2012) 『実践知: エキスパートの知性』有斐閣
- 経済産業省(2007) 社会人基礎力. 経済産業省
- 楠見孝(2011a) 「批判的思考とは: 市民リテラシーとジェネリックスキルの獲得」楠見孝・子安増生・道田泰司(編) 『批判的思考力を育む: 学士力と社会人基礎力の基盤形成』有斐閣 pp.2-24.
- 楠見孝(2011b) 市民の心理学リテラシー調査: 知識, 態度, ニーズ. シンポジウム「心理学の社会への貢献とは」『日本心理学会第75回大会発表論文集』JPAL (1).
- 楠見孝(2012) 幸福感と意思決定: 決定スタイルと自己制御モードの文化差. 『心理学評論』55, 114-130.
- 楠見孝・三浦麻子・小倉加奈代(2009) がん・アトピー性皮膚炎患者・家族のインターネット行動(1): 批判的思考が情報信頼性評価と病気への適応に及ぼす効果. 『日本社会心理学会第50回大会発表論文集』, 244-245.
- 楠見孝・三浦麻子・小倉加奈代(2012) 食品放射能リスク認知に及ぼす批判的思考態度と高次リテラシー: 震災後の市民パネル調査データによる検討(2). 『日本社会心理学会第53回大会発表論文集』, 372.
- 楠見孝・田中優子・平山るみ(2012) 批判的思考力を育成する大学初年次教育の実践と評価. 『認知科学』19, 69-82.
- 文部科学省(2012) 社会の期待に応える教育改革の推進. 『国家戦略会議関係資料』文部科学省
- 田中優子・楠見孝(2007) 批判的思考プロセスにおけるメタ認知の役割. 『心理学評論』50, 256-269.
- Zechmeister, E. B. & Johnson, J. E. (1992) *Critical thinking: A functional approach*. Pacific Grove, CA: Brooks/Cole. [E・B. ゼックミスタ, J・E. ジョンソン/宮元博章・道田泰司・谷口高士・菊池聡(訳)(1996-1997) 『クリティカルシンキング: あなたの思考をガイドする40の原則(入門編・実践編)』北大路書房]